

冷暖房切り替え時のコスト削減、 熱源機の分散によるリスク回避という オーナーさまの要望に応えるために。

「オ」 ーナーさまからは、春秋に必要な冷暖房の切り替えが簡単にでき、切り替えのためのコストも削減できるシステムにしたい。そして、宴会場系統の熱源機が吸収式冷温水発生機1台であり、機器故障時に他の機器で容易にバックアップできるようにしたいという要望を頂戴しました」と語るのは、宴会場部分の空調リニューアルに際し、設計・施工を担当した有限会社吉田電工の取締役・吉田和博氏である。同社では、他案件での実績も踏まえつつ、エコ・アイスへの更新が最適と判断。宴会場が3つに分割して使われることから、エコ・アイス3台を導入するというプランを提案したという。「エコ・アイスの場合、夜10時から翌朝8時までは蓄熱のため、の時間となります。宴会場は深夜・早朝の使用が無いためエコ・アイスと相性がよく、また、熱源機容量を抑えられるため既存変電設備を増設せずに導入でき

ること、割安な夜間電力を活用でき、契約電力も下げられることによるコストメリットも最大限に生かせると考えました。何より、宴会場の稼働率が高く、効率的な蓄熱が可能であるという点がポイントでした。電気代は当然上がりましたが、吸収式冷温水発生機で使用していたポンプや冷却塔などの補機類にかかる分を必要としなくなったため、電気代のコスト増は年間20万円程度で済んでいると伺っています。メンテナンス代、灯油代の削減効果により、吸収式をそのまま更新する場合と比較してのインシャルコスト増分の回収年は、4〜5年程度になると試算しました。また、震災などにより断水した際、エコ・アイスの水が使用できるというメリットも説明させていただきました」。

「現」 在、宴会場以外の部分の空調に使用している吸収式冷温水発生機についても、電気式空調システムへのリニューアルを打診されていると話す吉田氏。「宴会場でのエコ・アイス導入を通して、電気式空調システムの経済性や快適性を実感いただけただのだと思います。ホテルの客室の場合、部屋ごとの個別空調が理想です。その理想を実現する手段として、電気式ヒートポンプによる空調システムを提案させていただきました。快適なホテルづくりをめざすオーナーさまの思いにお応えしていきたいと考えています」。



有限会社吉田電工
取締役
吉田 和博氏
Kazuhiro Yoshida



氷蓄熱槽 (写真左)。雪対策として屋根を設けている。



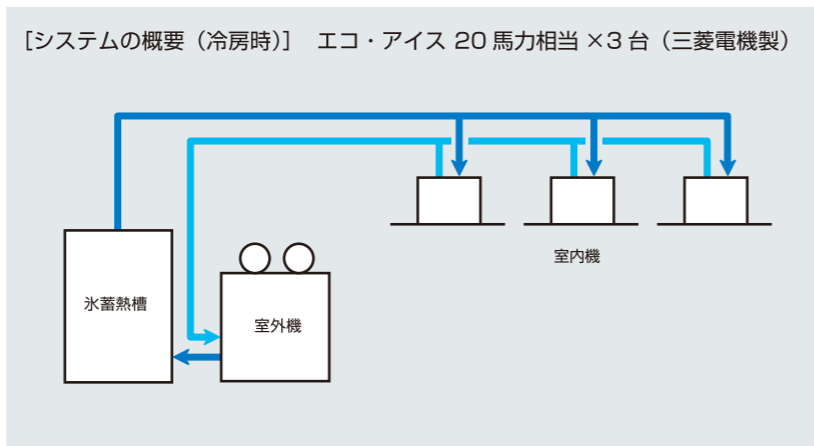
温度調整リモコン



エコ・アイス室外機



宴会場



[システムの概要 (冷房時)] エコ・アイス 20馬力相当×3台 (三菱電機製)



● 八幡平 (鹿角市)

夏の湿原は 高山植物の宝庫。 周遊コースを歩いた後は、 周辺の温泉でひと休み。

八幡平は、標高1613メートルの八幡平頂上を中心に、東は岩手山、南は秋田駒ヶ岳などに連なる、岩手・秋田両県にまたがる山です。八幡平の魅力は、新緑に包まれる春、高山植物が咲き誇る夏、紅葉が美しい秋、樹氷とアスピリンスノーが楽しめる冬と、四季折々、魅力ある自然に出会

えること。八幡沼を中心とする湿原は高山植物の宝庫で、夏には、ミスバシヨウ、イワカガミ、シヨウジョウバカマ、ワタスゲ、ニッコウキスゲなどの高山植物が咲き競います。山頂、八幡沼、ガマ沼などをまわる周遊コースも整備され、手軽にハイキングを楽しめるのもこのエリアの魅力。火山地帯にあることから、八幡平の周辺には後生掛温泉、玉川温泉など全国的にも広く知られている温泉が多く湧き出し、森林浴の後、温泉で体を休めるという楽しみがあるのも、ここ八幡平のもう一つの魅力です。



オススメスポット
★ 毎月花火が打ち上がる街 (大仙市)
毎年8月下旬に開催される全国花火競技大会で特に有名な大仙市では、毎月、花火を楽しむことができます。新年のカウントダウン花火に始まり、冬花火、さくら花火、七夕花火、秋の残月花火など、毎月、市内のどこかで花火が打ち上がります。